

都市消防委員会  
説明資料

平成31年3月12日

消防局

## 目 次

	頁
1 消防力の整備指針の充足状況について……………	1
(1) 平成29年度……………	1
(2) 平成30年度……………	1
2 消防官の年齢構成について……………	2
3 広報状況について……………	3
(1) 新聞掲載数……………	3
(2) テレビ放映数……………	3
4 戸別訪問による防災用品を活用した意識啓発について……………	4
(1) 想定年間スケジュール……………	4
(2) 消防団との調整……………	5
(3) 感震ブレーカーの性能比較……………	5
5 家具の固定ができるボランティアについて……………	6
(1) ボランティア人数……………	6
(2) 派遣実績……………	7
6 査察実施状況について……………	8
7 救急出動について……………	9
(1) 中村区名駅一丁目地内の救急隊の出動状況……………	9
ア 時間帯別出動割合……………	9
イ 救急隊待機場所別出動割合……………	9
(2) 医療機関区分別搬送人数……………	10
(3) 主な政令指定都市等の入電から医療機関収容までの平均所要時間……………	10

	頁
8 消防団詰所について .....	11
(1) 建築後の経過年数が長い詰所の構造等 .....	11
(2) 行政区別トイレ設置詰所の割合 .....	12
(3) 消防団詰所の整備イメージ .....	13
9 消防団詰所等に係る名古屋市消防団のあり方検討会の答申への 対応について .....	14

# 1 消防力の整備指針の充足状況について

## (1) 平成29年度

平成29. 4. 1現在

区 分		基 準	現 有	充 足 率 (%)
施設	署 所	66	65	98.5
	車 両 等	288	281	97.6
人員	消防職員の総数	2,494	2,279	91.4
	警 防 要 員	1,990	1,836	92.3
	予 防 要 員	311	250	80.4
	庶務等の要員	193	193	—

## (2) 平成30年度

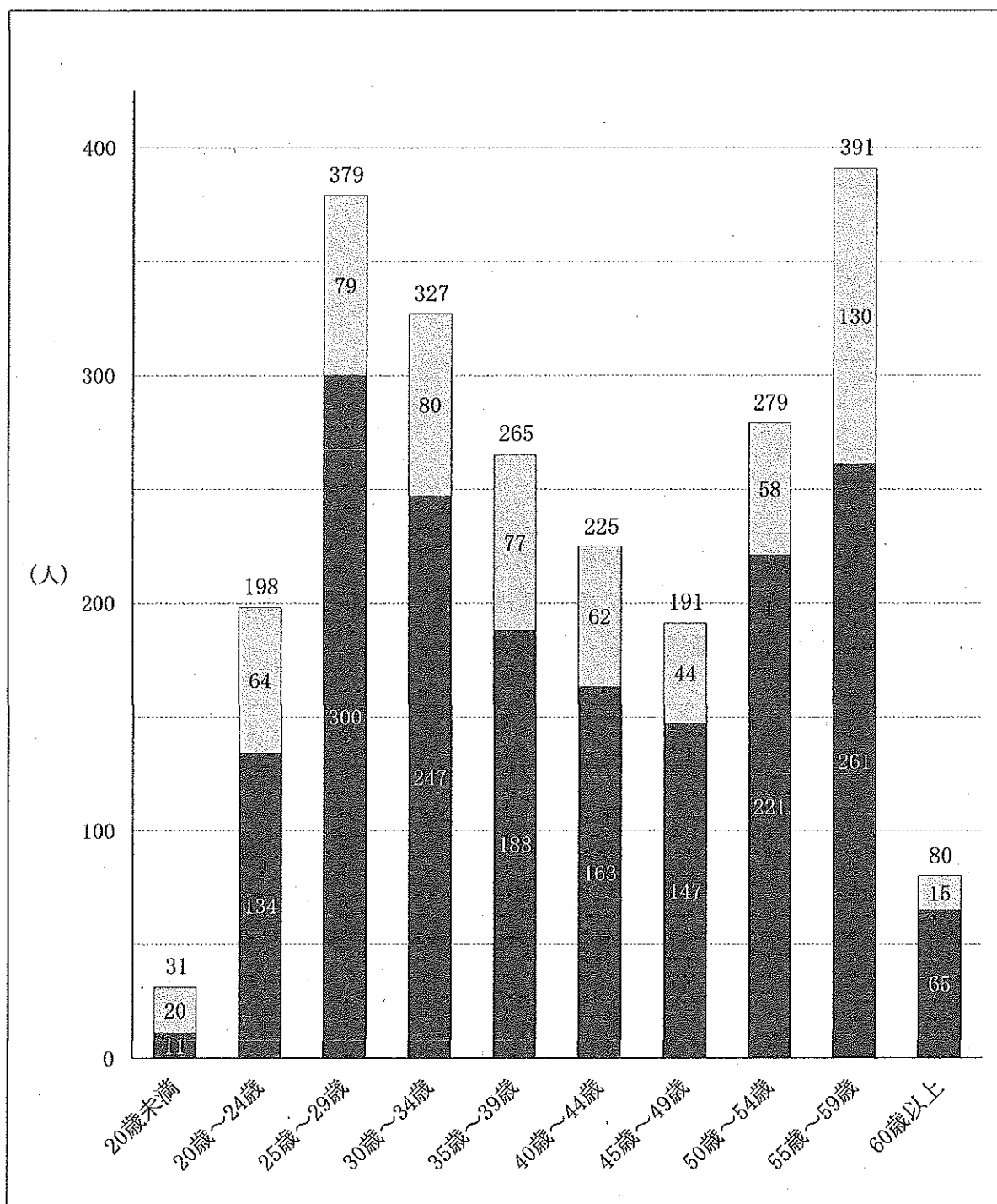
平成30. 4. 1現在

区 分		基 準	現 有	充 足 率 (%)
施設	署 所	66	65	98.5
	車 両 等	287	281	97.9
人員	消防職員の総数	2,499	2,288	91.6
	警 防 要 員	1,992	1,848	92.8
	予 防 要 員	312	245	78.5
	庶務等の要員	195	195	—

注 基準は、毎年度4月1日現在における人口、防火対象物数等を確認し、見直しを行うものである。

## 2 消防官の年齢構成について

平成30. 4. 1現在



【凡例】  
 : 毎日勤務職員数  
 : 交替制勤務職員数

### 3 広報状況について

#### (1) 新聞掲載数

区 分	掲 載 数
平成 2 9 年 中	7 2
平成 3 0 年 中	1 0 2

注1 掲載数は、事件、事故等を除く。

2 掲載数は、中日新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞及び日本経済新聞に掲載された記事の合計を示す。

#### (2) テレビ放映数

区 分	放 映 数
平成 2 9 年 中	7
平成 3 0 年 中	2 7

注1 放映数は、事件、事故等を除く。

2 放映数は、テレビ局からの依頼に基づく取材映像が放映された回数を示す。

#### 4 戸別訪問による防災用品を活用した意識啓発について

##### (1) 想定年間スケジュール

平成31年度

時 期	事 項	内 容
4月 5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施計画策定</li> <li>区政協力委員議長協議会</li> <li>各区区政協力委員協議会</li> <li>名古屋市消防団連合会</li> <li>各区消防団長会議</li> <li>各区民生委員児童委員協議会会長連絡会</li> <li>広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施にあたっての協力を依頼</li> <li>地域及び関係機関等との連携について協議</li> <li>実施学区の選定</li> <li>実施学区確定後、事業内容を住民へ周知</li> </ul>
7月 8月 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸別訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の防災力チェック票・希望調査票の配付・記入</li> <li>防災用品の調達・配付</li> <li>配付後の経過について追跡調査</li> </ul>
11月 12月 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル実施における検証等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の効果の検証</li> <li>次年度以降を見据え、より効果的・効率的な方法の検討</li> <li>住民ニーズの把握と求められる防災対策の検討</li> </ul>

注 時期は、地域の実情に合わせて調整する。

## (2) 消防団との調整

### ア 名古屋市消防団連合会

- ・ 事業の主旨・概要について説明
- ・ 事業実施にあたっての協力を依頼

### イ 各区消防団長会議

- ・ 事業の主旨・概要について説明
- ・ 事業実施にあたっての協力を依頼
- ・ 消防団の関わり方等について調整

### ウ 実施学区の消防団長との調整

活動時間、参加人数、他の消防団活動との両立を図るための効率的な参加方法等について協議し、可能な範囲での協力を依頼

## (3) 感震ブレーカーの性能比較

区 分	簡 易 タ イ プ	分 電 盤 タ イ プ
概 要	ばねの作動や重りの落下により、ブレーカーを落として電気を遮断	分電盤に感震機能を内蔵又は外付けする形式で、センサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断
電 気 工 事	不要	必要
電気遮断までの時間的猶予	なし	あり



## 5 家具の固定ができるボランティアについて

### (1) ボランティア人数

平成30.12.31現在

区 分	人 数
千 種	10
東	—
北	—
西	—
中 村	34
中	—
昭 和	30
瑞 穂	3
熱 田	7
中 川	18
港	11
南	13
守 山	16
緑	19
名 東	22
天 白	—
合 計	183

注 東区、北区、西区、中区及び天白区は、平成30年度からボランティアを養成。

(2) 派遣実績

平成30年度

区 分	軒 数
千 種	5 5
東	—
北	4
西	8
中 村	1 8
中	4
昭 和	2 3
瑞 穂	1
熱 田	1 9
中 川	7
港	3 1
南	5
守 山	6 4
緑	1 3 2
名 東	4 1
天 白	1 1
合 計	4 2 3

注1 北区、西区、中区及び天白区の軒数は、ボランティアの養成期間中において実践研修として実施した実績である。

2 軒数は、平成30年4月1日から平成30年12月31日までの派遣実績を示す。

6 査察実施状況について

平成30年中

区 分	査 察 対 象 物			査察対象物以外の対象物		
	対象物数	立入検査 実 施 対象物数	実施率 (%)	対象物数	立入検査 実 施 対象物数	実施率 (%)
全 体	47,145	11,230	23.8	47,542	794	1.7
共同住宅	16,946	2,173	12.8	21,443	111	0.5
飲 食 店	1,969	1,611	81.8	368	72	19.6

注1 査察対象物とは、定期的に査察を実施する対象物をいう。

2 査察対象物以外の対象物とは、必要に応じて査察を実施する対象物をいう。

3 対象物数は、平成30年1月1日現在の数値である。

## 7 救急出動について

### (1) 中村区名駅一丁目地内の救急隊の出動状況

#### ア 時間帯別出動割合

区 分	平成 2 9 年 中 (%)	平成 3 0 年 中 (%)
9 時 0 0 分 から 2 0 時 0 0 分 まで	6 7 . 7	6 7 . 1
そ の 他	3 2 . 3	3 2 . 9

注 数値は、中村区名駅一丁目地内の全救急出動件数に対する時間帯別救急出動件数の割合を示す。

#### イ 救急隊待機場所別出動割合

平成 3 0 年 中

区 分	名 駅 救 急 待 機 所 設 置 前 (%)	名 駅 救 急 待 機 所 設 置 後 (%)
直 近 の 署 所 隊	7 3 . 7	8 8 . 6
そ の 他	2 6 . 3	1 1 . 4

注 1 数値は、中村区名駅一丁目地内の全救急出動件数に対する救急隊待機場所別救急出動件数の割合を示す。

2 直近の署所隊とは、名駅救急待機所、特別消防隊第二方面隊及び中村消防署椿出張所をいう。

3 名駅救急待機所の設置日は、平成 3 0 年 6 月 5 日である。

(2) 医療機関区分別搬送人数

区 分	平成29年中 (人)	平成30年中 (人)
第三次体制 (救命救急センター等)	53,178 (47.8%)	64,525 (54.5%)
第二次体制 (病床数20以上の病院)	57,493 (51.7%)	53,371 (45.1%)
第一次体制 (病床数19以下の診療所)	466 (0.4%)	431 (0.4%)
その他	7	4
合 計	111,144	118,331

注 ( ) 内の数値は、合計に対する割合 (小数点第2位の値を四捨五入) を示す。

(3) 主な政令指定都市等の入電から医療機関収容までの平均所要時間

(単位:分)

区 分	平成29年中	平成30年中
名古屋	31.9	31.3
東京消防庁	50.1	50.1
京都	33.2	33.1
大阪	34.8	34.6
神戸	35.1	35.2

## 8 消防団詰所について

### (1) 建築後の経過年数が長い詰所の構造等

平成30.4.1現在

建築後の経過年数 (年)	構 造	延 べ 面 積 (㎡)
64	木造平屋建て	46.7
64	木造2階建て	135.3
57	RC造2階建て	69.3
56	木造平屋建て	58.3
49	鉄骨造2階建て	79.8
47	木造平屋建て	52.1
44	木造平屋建て	24.0
43	鉄骨造2階建て	157.5
41	鉄骨造平屋建て	45.5
41	木造平屋建て	66.4

注 RC造とは、鉄筋コンクリート造をいう。

## (2) 行政区別トイレ設置箇所の割合

平成30. 4. 1現在

区分	箇所数 (A)	トイレ 設置 箇所数 (B)	トイレ 設置 割合 (%) (B/A)	女性用 トイレ 設置 箇所数 (C)	女性用 トイレ 設置 割合 (%) (C/A)
千種	15	15	100.0	5	33.3
東	9	9	100.0	1	11.1
北	19	19	100.0	5	26.3
西	19	19	100.0	3	15.8
中村	18	17	94.4	4	22.2
中	10	10	100.0	1	10.0
昭和	11	11	100.0	1	9.1
瑞穂	11	11	100.0	2	18.2
熱田	7	7	100.0	2	28.6
中川	24	24	100.0	6	25.0
港	21	20	95.2	4	19.0
南	18	18	100.0	8	44.4
守山	19	17	89.5	7	36.8
緑	28	28	100.0	6	21.4
名東	19	19	100.0	3	15.8
天白	17	11	64.7	1	5.9
全市	265	255	96.2	59	22.3

注 女性用トイレ設置箇所数は、複数の個室トイレを有する箇所数を示す。

### (3) 消防団詰所の整備イメージ

大規模地震災害に備え、必要な耐震性・防火性を有するとともに、消防団のすべての装備を収納でき、継続的・長期的な活動を可能とするスペースや女性消防団員に配慮した設備を有する詰所を整備する。

#### ア 構造

鉄骨造2階建て又は鉄筋コンクリート造2階建て

#### イ 延べ面積

約70～80平方メートル

#### ウ 主な仕様

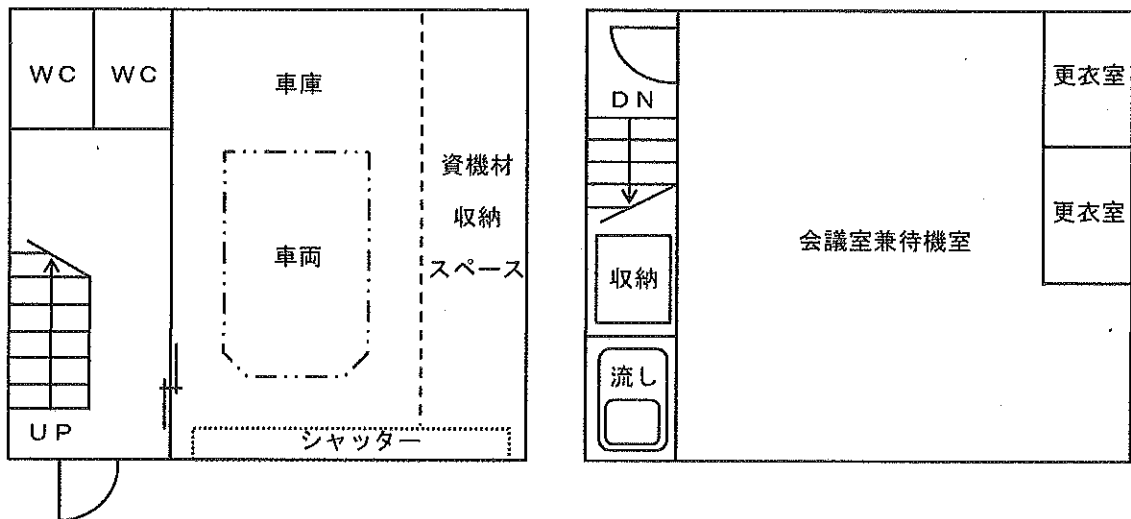
##### (ア) 1階

車庫、資機材収納スペース、トイレ（男性用・女性用）

##### (イ) 2階

会議室兼待機室、更衣室（男性用・女性用）

#### エ 平面図



1階

2階



9 消防団詰所等に係る名古屋市消防団のあり方検討会の答申への対応について

区 分	あり方検討会の答申の概要	対 応
詰 所	<p>現詰所の取扱いや予算確保などの課題を整理しつつ、長期的な視野で市有化に移行すべきである。</p>	<p>来年度整備予定の詰所において整備手法を検証しつつ、消防団連合会と調整を図りながら、詰所整備の方針・計画を早期に策定することとした。</p>
車 両	<p>保管場所や予算確保などの課題を整理しつつ、中期的な視野で市有化に移行すべきである。</p>	
被 服	<p>計画的な配付と効率的な予算執行を図るため、早い時期に市での調達・管理に移行すべきである。</p>	<p>未 対 応</p>
運 営 費	<p>詰所、車両及び被服の市有化に伴い不要となる負担金との整合を図りながら、消防団に必要な経費の見直しを行っていくべきである。</p>	

注 対応は、都市消防委員会（平成30年12月5日、名古屋市消防団の充実強化について）後の対応を示す。

